

豊友会だより第十回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載いたします。
 次回、第十一回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

第十回豊友会俳壇(豊友会だより第69号)

兼題－1:福引

投稿者	作品
赤塚 慎一郎	福引に親の手撥ねるやんちゃかな
浅見 茂	我が人生福引当たり七十二
岩井 鑛治郎	福引の意味さえ知らず福袋
上田 正隆	願わくば福引きの玉赤か青
小俣 祥忠	福引や北半球が暮れにけり
海外 涼	福引に夢の膨らむ長き列
川畑 耕祐	福引の当り引当て鐘鳴らす
川上 千里	福引や子の夢繋ぐ玉の音
黒山 茂英	福引のティッシュウ両手にまた拝す
小泉 隆広	福引所順待つ列の少し延び
斎藤 光	福引に小さき幸をもたらせし
櫻井 暎子	当たりくじ何度もなんども確かめる
重田 康之	福引きの一番違いに膝崩れ
武川 順子	懲りもせず福引きするも残念賞
土田 悦男	凍える足歳末くじ引き福よ来い
中村 隆晴	福引や願ひを込めて番を待つ
屋代 順治郎	福引の当たり知らせる鈴の音
矢倉 弘泰	福引の当りてかねの喧し
矢治 宏之	福引や孫に引かせて大当たり
吉武 繁廣	福引の当りの声に身を竦め
米須 あや子	福引のうしろの列のおさげ髪
渡部 良一	鐘の音に玉色ひかり笑 ^エ 顔 ^ミ うかべ

兼題－2:入学

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	入学児祝ひときめき仁王立
浅見 茂	入園式蝶ネクタイのチビ紳士
上田 正隆	入学に娘の服を孫娘
小俣 祥忠	入学や家族の笑顔久々に
海外 涼	入学式空に広がる大樺
川畑 耕祐	入学の吾子の姿晴れ晴れと
川上 千里	入学や母と行李に荷を詰めて
黒山 茂英	入学式列はみだして吾子ひとり
小泉 隆広	詰襟のなじめぬままに入学す
斎藤 光	小さき手を大きく振って入学す
櫻井 暎子	嬉しいなぴっかぴっかの一年生
重田 康之	お揃いの制服眩し新入生
武川 順子	入学式決意新たに背すじ延ぶ
土田 悦男	親うれし子は緊張の入学式
中村 隆晴	手を焼きし孫の凜凜しく入学す
屋代 順治郎	入学式緊張顔の男の子
矢倉 弘泰	登校児の列に小さき新入生
矢治 宏之	入学児膝を擦り剥き帰宅かな
吉武 繁廣	入学式再開の笑み母と母
米須 あや子	緊張と笑顔の揃ひ入学す
渡部 良一	セーラー ^{マコ} 服娘孫にも衣装目に光る

自由題:「冬」「春」の季題より

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	厳冬の瀬に白鷺の動かざる
浅見 茂	御神渡り地球が割れる音ひびく
岩井 鑛治郎	症状は軽しと言えどオミクロン
上田 正隆	追い炊きに熱水めぐる冬の宵
小俣 祥忠	子の寝息聴いて安らぐ炬燵かな
海外 涼	成人式香り引き連れ車から
川畑 耕祐	コロナ禍の終息祈り春を待つ
川上 千里	自分史の筆遅々として年暮るる
黒山 茂英	花仰ぎ花びら踏んで試歩の径
小泉 隆広	春踊る里山河が演舞台
斎藤 光	せせらぎを来て囀の只中に
櫻井 暎子	窓を開け思わず手を引く寒返る
重田 康之	冬晴れや酒蔵眩し安芸の街
武川 順子	風に舞う散りゆく桜行く末は
土田 悦男	夕日眩し帰省子送る冬並木
内藤 俊彦	凧揚げや帰省の孫の笑い声
中村 隆晴	散歩道急かす小犬の息白し
野下 晴夫	土手の色菜の花盛り人楽し
屋代 順治郎	早春の陽射しあつめて陶器市
矢倉 弘泰	山頂に淡き紅差し初日の出
矢治 宏之	春寒し寺の廊下の軋む音
吉武 繁廣	新幹線いつも窓側冬の富士
米須 あや子	色白のややこの欠伸春を待つ
渡部 良一	我が腕に温くもり感じ除夜の鐘